

第1回広島県総合計画審議会議事録

- 1 日 時 令和6年7月29日（月）午後4時から5時30分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号
広島県庁北館2階 第1会議室及びweb
- 3 出席委員 芦谷委員、石田委員（web）、石原委員（web）、伊藤委員、上野由紀子委員、大野委員、加藤委員、金澤委員、菅委員（web）、神田委員、木下委員、木山委員、小池委員（web）、牛来委員、早田委員、高場委員、田中委員（web）、日高委員（web）、百武委員、フंक委員（web）、本多委員、松村委員（web）、森信委員、山川委員、吉田委員（web）
- 4 議 題 (1) 見直し方針等について
(2) 小委員会の設置について
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当
電話：(082) 513-2396（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容（議事要旨）
- 【会長選任】**
委員の互選により芦谷委員を会長に選任
- 【諮問】**
湯崎知事から会長に諮問書を手交
- 【会長代理指名】**
芦谷会長が松村委員を会長代理に指名
- 【見直し方針等】**
事務局から総合計画の見直し方針、体制、スケジュール等を説明
- 【小委員会の設置】**
会長の指名により小委員会（10人）を決定
- 【意見交換】**
(委員)
- ・ 人口の社会減について、ある専門学校では、ほぼ県内から学生が入ってくるが、就職先は7割方が広島で、3割が県外に出て行く。特にIT系、エアライン系、ホテル業界、美容師など、

関東・関西の人手不足が強いと感じる。

- 子供・子育て領域について、K P I で待機児童ゼロとあるが、先日の日経新聞では、国の施策で増やした保育所の定員の4割が余っているとのことだった。待機児童をゼロにするだけでなく、保育所の立地や必要な定員などをもっと調べておく必要があると思う。
- 比婆牛について、広島県は、比婆牛を推しているという報道を見たが、広島牛、元就、比婆牛、神石牛とあって分かりづらい。「比婆牛」と聞いただけでは広島のことを思い浮かべられないので、海外に推していくためには、例えば、ゆるキャラなどを使ってまとめて売り出し、その後、個別に売り出すなどの戦略が必要ではないか。

(委員)

- 人口減少について、現在、「HATAful (はたフル)」で、広島県の人口減少に関するディスカッションを進めている。広島が教育に優れた県というのは強みであると改めて感じたが、一方で、育った若者が県外へ出て行くという傾向がある。出て行くことは良い側面もあるが、民間企業の立場で、帰ってきたいと思える地域の魅力を作るとともに、県外への転職を防止したいと考えている。これを県内企業で広く実施していきたいので、ネットワークを生かして検討を進めたい。
- ビジョンを進めていく中で、想定よりうまくいったこと、うまくいかなかったことがあれば教えてもらいたい。

(事務局)

- 数字の評価になるが、K P I の達成率が低い領域では、健康領域は16%、スポーツ・文化領域では14%となっている。達成率が高い領域では、産業イノベーションや中山間が83%となっている。チャレンジな目標を設定している場合は低くなっているというところはある。

(委員)

- 転職に関して、県外流出については強く実感している。今のZ世代は就職した日に転職サイトに登録している。1社に勤め上げることが普通だった世代とは違う。転職した時の賃金体系をどうするか、年功序列ではないやり方などを各企業も考えておられる。若い人たちが外に出ていく事象について、要因を知らずに検討を進めていくことは難しいと思うので、どこまで調査できるか分からないが、広島県の人口流出と、逆に外国人労働者は入ってきている状況について、調査がまず必要ではないか。
- 春闘で、広島県全体で賃金が6%上がった。ただ、中小企業では1%くらい開きがある。そこが解消しきれていない。県として、ビジョンで何か示すことはできないと思うが、県にはチェック機能として責任ある取組をお願いしたい。

(委員)

- 様々な施策があるが、施策間の相互作用があると思う。資料としてそれが分かるものになっていない。一覧性が欲しい。例えば資料5であるが、めくりながら見ても何がどうなっているか分からない。せめて、1領域1ページにまとまるようにしてほしい。K P I を見るのに、資料を行ったり来たりさせず、きちんと検討することに資する資料になるようお願いする。

- ・ 外から広島を見る時に、広島という名前は世界的に浸透しているのは資産である。東京はもちろん知名度高いが、大阪、名古屋、沖縄よりも圧倒的に世界中が知っている。世界が知っているという資産を活用する必要がある。もっともっと広島と聞いて想起するもの、PRをするための中身を充実させて、資産をしっかりと使っていくことも大事である。
- ・ 広島という町に住み続けたい、ハッピーであると思っていただくためには、良い仕事があるということが大事である。良い仕事のためには、良い企業がよりよい賃金で、やりがいのある仕事を提供できることが必要である。それによって良い人材が集まる。その良い循環をつなげていかななくてはならない。
- ・ 県民が住み続けるための広島の魅力がある。働く場が魅力的であれば、病院、地域も良くなっていく。発展の順番が大事。アメリカの都市でも、良い企業が来るところには良い住宅、良いサービス、良い教育が自然に付いてくる。優先付けを考えてもらいたい。

(委員)

- ・ ビジョンという長期的に目指していく姿と、現実の身の回りで起きている実感に乖離があると思う。例えば、子育てで言うと、「安心して子供を育てられると感じる割合」といった指標になって数値が出るが、実際に子育てしていると苦しくて、もっと快適に子育てをしたいと思っている。こうしたビジョン指標と実際の思いとの乖離をどう埋めていくべきか、ビジョンには反映できないかもしれないが、担当部署の方には意識していただきたい。
- ・ 市町と県において、ちょっとした改善など、うまくいったものは水平展開が必要だと思う。例えば、広島市の保育所は布団とおむつは持って帰らなくてもいいが、白米を持って行かないといけない。地域によっては手ぶら保育園というのもあったりする。そういったことを県域でやってみようとなれば個人的にはありがたい。
- ・ 観光とかスポーツ文化に関しては、まちなかのハード面は良くなっていると思うが、ソフト面で人が育っていないと感じる。ソフト屋、イベント屋みたいな人を育てて、持続可能なモデルを作っていく必要がある。例えば県の観光連盟がイベントをやったりするが、東京の人が考えたものを「いいね」ということで実施している。県外の人でもいいので、それができるスキルを持った人を広島に呼び込んで、広島の中でそれが出来るようにしていくべき。新しいサッカースタジアムも、サッカー場としてはピカイチだが、試合がない日のイベントについてはよく分からない。ソフトに対して力を入れてもらいたい。
- ・ 比婆牛について、以前アニマルウェルフェアをやっていたが、いわゆる和牛という市場、アジア・アメリカでは売れるけどヨーロッパでは売れない。どの市場に売っていくのか、カキにしてもアジアでどうなのか、ヨーロッパではどうなのか。育て方に基準、数値が求められるものであり、一概にDXやイノベーションだけで出荷量が増やせるというものではないのではないか。

(委員)

- ・ 総合計画の作成では、それぞれの分野ごとにKPIを設定し、テーマを分割する。これは目標達成には有益だが、実際は1つのテーマがほかの物事に影響を及ぼす。物事は静的に分解されるだけでなく、動的に絡み合う。例えば、スポーツ振興をすれば、地域に愛着がわき、共生社会につながり、地域が誇りを持ち、それを外に対してアピールすることで、観光振興になり、

更に地域のつながりが強まる、そうすると防災意識が強くなる、など、関係性の中で出来ている。計画はどうしても縦軸で考えていかないといけないが、分野間のシナジーが出てくる。メカニズムで考えたほうが良い。変動する要素は様々であるが、全体感がある程度意識して、どこを取り上げて、どこにインパクト出すか考える必要があると思う。

- ・ 広島県内だけでなく、全国や世界でのポジショニング、比較優位性がどこにあるのかという視点が合ったほうが、より説得力が増すのではないかな。

(委員)

- ・ 審議会の作業について確認であるが、KPIを加えたりできるのか。今の指標では評価するに不足していると思う。
- ・ 関連性を表すのは非常に難しいと実感しているが、各分野で、こことここが関連しているといったものが示せれば良いと思う。

(事務局)

- ・ ビジョン指標はビジョン改定に当たって必要な見直しを行っていききたい。KPIについては、アクションプランで設定しているものであるため、そちらの検討の中で考えていききたい。

(委員)

- ・ これまで個別の計画を作る中でも感じていることとして、都市部としての広島、中山間としての広島、この2つの面があると思う。課題を洗いざらい出して、広島がそれらの課題解決を全国に先駆けてやっていく、ということがあってもいい。
- ・ また、広島県は東京などの大都市と比べて、現場との距離感の近さ、意思決定の早さがある。フットワークの軽さを有する大都市として、色々なチャンスが眠っている。とにかく課題を前向きに捉えて、ポジティブに考えて整理していけばいい。広島が持つアセットは何なのか。違う見方があるのではないかと思った。
- ・ 作るべきインフラはきちんと作らないといけない。ハードの整備は効果発現までに時間かかるので、もう少し先を見据えた投資の目線が必要だと思う。インフラやネットワークがしっかりしていないところに人はいかないと考えると、それをつなぐということ或いはストックをきっちり整理することの重要性というのは増えているのではないかな。

(委員)

- ・ 広島のイメージは、瀬戸内海が中心で、「中山間地域は何があるのか」というレベルだと思う。海からも山からも、もっと全体的なイメージを作り上げることによって、広島県のブランドが高まる。
- ・ 観光の指標で、広島を訪れる観光客がストレスなく観光できるという点について、庄原市はほとんどが山で、遊歩道がない、トイレがないなど、観光客のストレスは多い。瀬戸内海から中山間にかけて、一体的な整備をしてもらいたい。
- ・ 比婆牛については、広島牛や元就とブランドが変わっていった経緯がある。どのようにブランド化するのか、広島県全体の在り方をみていくべきだと思う。
- ・ 今、地元の庄原市では、食料をしっかり作れる環境、地域を作りたい、それと、しっかり地

元でエネルギーを作り上げていくことができるような地域でありたい、という構想をもっている。ぜひとも広島県全体でやっていただければと思う。

(委員)

- ・ 自分の子供が生まれ育った地域を理解する、そういう教育を、5年や10年ではなく長いスパンで取り組んでいくことが、転出者の減少や転入者の増加につながっていき、広島県の発展につながると思うので、教育についてしっかり考えていただきたい。

(委員)

- ・ ビジョン指標について、社会情勢で自然に発生したものやたまたま達成したもの、理想を語っているものなど様々あると思う。例えば、防災・減災の認知率100%というのは理想だが達成は困難だと思うがどのように考えているのか。

(事務局)

- ・ ご指摘のとおり、ビジョン指標については領域ごとに内容が異なり、定量的なものやそうでないものなど、様々である。ビジョンの見直しに当たって、より適切な指標の見直し考えていきたい。

(委員)

- ・ 明らかに達成が難しい目標は、ビジョン指標の達成・未達成だけでなく、ここは難しかったけどここは達成したなどのように、ブレイクダウンして捉えていただきたい。

(委員)

- ・ ある市町職員と話をした時に、「我々は縦割りなので」とおっしゃっていた。要は、「対応できないので、我慢してください」と。そのように言われたことにびっくりした。どのように解決できるかを考えた時に、モデルケース的に大きなプロジェクトを、部署を超えて一緒に協力していくというのが沢山行われるとよいのではないかと思った。
- ・ 女性起業家の知り合いが多いが、出産しても復帰が早い。雇用される側と違い、女性事業主は育児休業給付金がないので、守られていないと感じる。国の制度であり、県のビジョンに入れるものではないかもしれないが、県の制度の中で支援できる仕組みがないか。一方で、給付金があるからなんとなく当たり前1年間休むことになっているという面もある。

(委員)

- ・ 政策立案プロセスにおけるデザインの研究している。姿かたちのデザインではなく、矛盾する要素を解決するのがデザインであり、政策立案の最初の部分でクリエイターを入れる自治体が増えている。まだちゃんとできている自治体はないが、かけられるコストも制限される中で、複数の異なる政策課題に対し、クリエイターの力も借りながら、取組を上手く組み合わせた政策立案を行うことで、より効果を出していく。こうした形ができればもっと良くなるのではないか。

7 会議の資料名一覧

資料1 広島県総合計画審議会設置条例

資料2 広島県総合計画審議会委員名簿

資料3 「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の見直しについて

資料4 「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」(概要版)

資料5 「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」これまでの主な取組と成果

参考資料 「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」